

「福井市総合計画審議会」 第5回 第2部会

■開催日時：平成22年9月28日（火）18：00～20：00

■開催場所：AOSSA 6階 602研修室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

定刻となりましたので、福井市総合計画審議会専門部会第2部会の第5回目の会議を開催させていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして誠にありがとうございます。島崎委員さんだけ、ご欠席というご連絡を今日、受けております。

2. 市民憲章唱和

司 会

まず始めに市民憲章の唱和からお願いしたいと思います。恐れ入りますがご起立をお願いいたします。市民憲章は次第の裏にございます。私が前文を朗読いたしますので、それに引き続きご唱和をお願いいたします。実践目標についても併せてお願いをいたします。

————— 市民憲章唱和 —————

ありがとうございました。ご着席ください。

3. 議題

司 会

それでは、以後の審議につきましては、内田部会長さんの方でよろしくお願いいたします。

【(1) 将来都市像について】

内田部会長

皆さんそろったことですので、始めたいと思います。きょうは前回ちょっと宿題もありましたけども、将来都市像についてということを中心に審議していこうと思いますので、では、事務局の方からご説明をお願いできますでしょうか。

事務局（吉村室長）

では、その前にちょっと追加資料がございますので、資料の説明をさせていただきたいと思います。

まず、資料No.18「福井市民意識調査」、前回速報版で、それぞれの項目の単純集計の

結果だけを配付させていただきましたけれども、地区別ですとか、年代別ですとか、性別別といったかたちで、いろいろな視点からちょっと文章を加工したものを報告書としてまとめておりますので、配付をさせていただいておりますので、今日はなかなか見るということは難しいと思いますけど、またごらんをいただきたいと思います。

そして次第を1ページめくっていただきますと、「市民意識調査の分析概要」ということで、ごくごく大まかな方法としてこういったことが伺えるということを書いてございます。まず、福井のまちへの思いについてということですが、実はこれは5年前、現在の総合計画の基本計画の改定の際に、だいたい似たような項目で意識調査を行っておりまして、その経年変化もちょっと考察しております。まちへの思いにつきましては、前回調査と比較して大きな変化はない。住みやすいと感じている人、それから住み続けたいと思っている人が多数を占めている状況でございます。それから今後のまちづくりについてですけれども、これも前回と同じく安心して暮らせる安全都市が他の項目よりも圧倒的に多いということでございます。3点目の生活環境これもほとんど前回とは変わっていない状況でございます。それから4点目、市役所の仕事、力を入れてほしい仕事について聞いたものでございますけれども、高齢社会の進展を反映して、高齢者福祉ですとか、介護福祉など、高齢者に関する仕事に対して力を入れてほしいという意見が前回よりも増加傾向にございます。一方、防災体制ですとか、河川整備、災害に関する仕事については力を入れてほしいという意見が前回よりも減少傾向にございます。これは平成16年に福井豪雨がございましたので、その後の意識調査であったこと、さらにその後浸水対策に関しまして河川ですとか、あるいは貯留管の整備などが一定程度進んだことによって、ある程度そういう不安から解消されつつあるという部分もあるのかなと思います。それから最後の施策の満足、重要度についてでありますけれども、これは現在は総合計画の施策ごとの満足度等を聞いておりますけれども、活力と魅力あふれる産業づくりという項目がございまして、これが前回、それからその後これは毎年意識調査はしていますけれども、だいたい中ぐらいの満足度、重要度というところにあった項目ですけれども、経済、あるいは雇用情勢を反映して、今回は大幅に満足度が減少して、不満足と重要度が急激に増加している状況にございます。

次に、資料の19をごらんいただきたいと思います。総合計画の審議会に諮問をした総合計画の素案についてパブリックコメントを募集した結果でございます。将来都市像についてを中心にお聞きしておりますけれども、将来都市像についてが10点、その他の自由意見が11点と、合わせて20点程度ご意見をいただいております。そのご意見いただいた中で、1点将来都市像の提案がございましたのが、表紙の中ほどの枠の中に入っております。将来都市像の提案として、「笑顔が輝き 活気溢れる 生活安心No.1都市 ふくい」ということでご提案をいただいております。

一枚おめくりいただきまして、将来都市像について主な意見をかいつまんで申し上げますと、1番目のところでは「生活安心」ということを訴えたいのであれば、それが明確に分かるようなデザインに工夫すべきである。それから2番目のところでは、「生活安心」という言葉が受け身的な印象を受けるということで、もう少し活動的なイメージを出したほうがいいのかというご意見。それから3番目のところですが、これも、「みんながいきいきと働く都市、産業、雇用、観光」、こういったところをもうちょっと優先したほうがいいのかというご意見。それから単なる「生活安心」ではなくてNo.1を目指す意気込みが必要じゃないか、というご意見が出ております。おめくりいただきまして、8番目のところでは、県人口の3分の1を占める県都福井として県を導くようなリーダーシップを示すことが大事であるという意見もいただいております。その後ろの方は自由意

見ということで、いろいろご意見をいただいておりますけれども、4番目のところでは県都に代わる何か新しい福井市の代名詞をそろそろ考えるべきではないか、こういったご意見もいただいております。

それから次第の方に戻っていただきまして、次第の2ページには、おさらいと言いますか、これまでそれぞれの部会で基本目標、政策のところをまとめていただいたものをおさらいで載せておりますけれども、将来的都市像がその上に来ているものだというので、体系図を載せさせていただきます。

それから今後の進め方でございますけれども、本日この部会で将来都市像をある程度絞り込んでいただきまして、できれば3つまでぐらいで、部会としての案をおまとめいただきまして、次回調整会議、会長、副会長、それからそれぞれの部会の正副部会長の皆さまにお集まりいただきます調整会議で都市像を絞り込んでいただくまでをお願いするつもりでございます。調整会議で絞っていただいたものに対して、その意図ですとか、そういったものを含めて前文とか、あるいは取り巻く環境といったものも整えて、もう一度調整会議を開きまして、そこでそういったものを含めてもう一度都市像を見ていただく。その後今度は11月ごろになると思いますけれども、全体会を開いてそこでまたご意見をいただく。そこである程度取りまとめていただきました後、この総合計画審議会として市民の意見を聞くような、パブコメのようなかたちになりますけれども、そういったことをして、その結果をまた踏まえて全体会を開くというような、大まかにはそういった考え方でおります。調整会議でなかなかまとまらない場合、会長にお任せするといったこともあるかもしれませんが、進め方としてはそういったかたちで進めたいと考えておりますので、本日はそういったことをご議論いただきまして、部会としての案をまとめていただきたい。

それからA4の横で「私の考える福井の将来都市像」という、これは宿題をまとめたものがございます、1枚目、2枚目が第2部会の皆さまのご意見、それから本日コピーで内田部会長と田村副部会長の案をまた付けておりますけれども、これを加えて全部で7つの案が出ております。それから3枚目以降は、これは参考までにとということで、ほかの部会で作られているものももしかしたら参考になる部分があるかもしれませんので、併せて付けさせていただきます。

以上、資料の説明かたがた、今後の進め方なども説明させていただきましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

内田部会長

ありがとうございました。最終的には当然1つですよ。最終的に1つです。きょうは3つほどこの部会から案を出しましょう。

事務局（吉村室長）

1つにバツと、「これだ」ってまとまるならそれでももちろん結構ですし、なかなか「こっちもいいな、こっちもいいな」ということであれば3つぐらい。

内田部会長

ありがとうございます。それでは順番としまして、それぞれ第2部会に出ている、すでにお手元のA4横に出ている5人分、それと今日出しました2人について、簡単に説明を順次いただくということで、取りあえずは当部会で作る案を参考に作っていかうかなと思います。もし、よその部会の方でこのフレーズはいいなというのがもしありましたら、最後にそれも見ながらまとめていかうかなと思いますので、最低でも1つ、3つぐらいでしたら3つということでやっていかうと思います。それでは、お名前が分かってよろし

いですよ、これは。

二林委員

顔が見えんほうがいいのではないですか。

内田部会長

見えないほうがいい。そうしたら、私のほうで読み上げていきますので、そうしましょうか。

二林委員

そのほうがいいと思いますよ。

内田部会長

今日の分はもう見えてしまいますので、申し訳ございません。

では、よろしいですか。では、匿名という格好でいきます。では、1から5まで読み上げます。1が「夢と希望 安心安全な街づくり」、「歴史は繰り返す」との言葉があります。社会は常に変貌を遂げています。

二林委員

どこですか。

内田部会長

違うところ読んでるね。

田村副部会長

1部会。

内田部会長

1部会、失礼しました、第2部会ですね、「明るくひらかれた快適都市 ふくい」です。「福井の市民意識調査によれば多数の市民が中心市街地のにぎわい復活を最も望んでいます。これがなかなか進まない理由の一つとして、ある種の閉ざされた雰囲気があるためではないかと感じています。これは地方都市としてやむを得ないことではありますが、北陸の冬の暗い天候のイメージがこのような雰囲気と重なっているように思います。にぎわいを取り戻すために福井が変わってゆかねばならないとすれば、日本の各地や世界から人々を受け入れてともに快適に暮らしてゆける明るくひらかれた姿勢が大切と思います。今後の10年や20年でいや応なしにグローバル化が進みます。日本から世界に出て行くグローバル化もありますが、世界から日本に入ってくるグローバル化も並行して起きます。海外からの観光客や出稼ぎとともに東アジアなどから企業進出も大いにあり得ると思います。日本海で東アジアの国々と結ばれた福井には、このようなグローバル化の波を受け入れられる懐の広いまちづくり（市民の意識づくり）を長期的に目指すことが重要と思います。」、ひらく、ひらく、「明るくひらかれた快適都市 ふくい」、非常に大きな視点での提案かと思います。

2番「近未来創造都市 ふくい 皆で、これからのまちづくりを考えようではないか子供たちにゆたかなまちを残すために」、自然環境、他文化交流、地域産業、文化創造。市民と行政が連携して、まちづくり新ヴィジョンを描きましょう。国際化が進む中、他文化との相互理解を深める。語学教育の新カリキュラムの導入。ふるさとの自然を守る環境教育。市民の知恵と行政との協働で、暮らしよい創造都市を目指します。」、「近未来創造都市 ふくい 皆で、これからのまちづくりを考えようではないか子供たちにゆたかなまち

を残すために」というご提案です。

3番「福祉、環境にやさしい生活快適都市 ふくい」、「いまや、人口動態は少子高齢化社会と進み、今後、益々この傾向が増大する。これら状況を踏まえた都市づくりがいま求められる。環境づくりは、保健と福祉分野にわたる総合的な計画で、子供から高齢者までの、各々のライフステージに対し配慮されたものである。また、推進の過程で地域の特性を活かし、企業をとりこみ経済産業の発展に結びつけば、福井市の活性化の一環にも繋がる。都市の活性化も、人々の健康なくして成り立たない。人が元気であれば、地域も活気付く。「物」中心の社会から「人」中心の社会へ、すべての人にやさしく、人を大切にす都市づくりで、高齢者対策やバリアフリーなど、福祉の充実を図り、人間が人間らしく生きるための社会環境整備を図り、健康で快適な質の高い他都市に勝る生活快適都市「ふくい」を形成する。」、「福祉、環境にやさしい生活快適都市 ふくい」。

4番目「夢や希望を共に育み、安らぎのある暮らし、活気あふれる都市へ」、「地域主権へ向かいつつある国政を踏まえ、私達福井市民はしっかり自立、自律しなければなりません。その為には、すべての老若男女、農、工、商業、学、流通、医、福祉などあらゆる職業従事者と資本の行政への協力、参加が不可欠となります。また少子高齢化が進む中で、相互扶助の精心とシステムを築き、機能させる事が望まれます。「夢や希望を共に育み」の中には、最少のコミュニティーである家庭から、公教育や、世代間交流、異種事業者交流などの比較的規模の大きいコミュニティーにおいて、理想の暮らし、都市像を想い、それに向かって歩いてゆく方法などを市民自らが考える環境を創りたいという願いを込めました。民主的な地域の運営や都市計画には、行政のイニシアチブが益々大変重要になってきます。今までのような縦割りでは、効果的な市民参加は望めません。横の連携を密に行う事により、臨機応変に無駄のない人的、資金的投資を行えば、形骸化しない。活きた「活気あふれる都市」が必ず実現すると考えます。財政面の健全な運営にも市民のチェック機能を活用して無駄を省いた上で、地域内での再分配が効果的に働くと、それは「安らぎのある暮らし」へ繋がろうかと思えます。そして、笑顔があふれる魅力的な都市には、居住者が流入して来ます。以上、消費し消化する今までの下方スパイラルの協働から、造り上げ育む上昇スパイラルの政治への転換を図ってゆきたいという気持ちで将来都市像を考えてみました。」、「夢や希望を共に育み、安らぎのある暮らし、活気あふれる都市へ」。

「人に 自然に 文化に やさしいまち ふくい」、「近年の高齢化社会から町のいたるところにバリアフリーを見るようになった。しかし、まだ整備が完全ではないのが現状だと感じる。そこで、バリアフリー化により、高齢者の方だけでなく、福井市民の危険を軽減することで、人にやさしいまちを作り、一方で開発を進めることで弊害として生じる自然破壊を抑え、市民と手を取り合って環境美化を行うことで、自然にやさしいまち作りを目指す。また、福井市には歴史的に重要なものがたくさんある。そこで、そういった財産をこれから先にも残していけるような活動を積極的に行うことで、文化にもやさしい町づくりを目指す。」、「人に 自然に 文化に やさしいまち ふくい」。

あとここにお二方の分が来てます。もう名前が入っちゃってるんで、すいません。「すべての人（市民）が輝き、つどう、豊かなふくい」、「老若男女（年齢、男女と問わず）が未来に希望を持ち、子供たちに自慢の出来る都市、又そこで輝いている人達が市民であります。みんなが笑顔で話し合える街を目指すことです。生活力のある（働く場）、働きがいのある（夢をもつ）、身も心も豊かな都市を目指します。」、「すべての人（市民）が輝き、つどう、豊かなふくい」。

最後、これは私です、字汚いのですいません。「ほっとできる都市 ふくい」、「県外の人々が福井に来て感ずることの多くに、温もりを感じるとか、人なつつこいということ

よく聞きます。自然、長寿、教育など、優れているものの、個々の指標でいえば表現が個別的になりむづかしい。他から来て「ほっ」とする場所である都市、あるいはほっとする場所に都市として成長していくことが求められる。」「ほっとできる都市 ふくい」。ということで7人さんの方からご提案をちょうだいしました。

できればフレーズごとに、かぶってるフレーズを集めていくという方法もあるかなと思います。どういうふうにまとめていきましょうか。最後に「ふくい」と付くのは、皆さん落ちは、4番の方だけです、ね、「ふくい」がないのは、2番は、これはサブで「皆で」以下が出ている解釈でいいですね、そうすると最後は「何々、何々ふくい」ということで、「ふくい」はそのままもらいましょうか、どうですか、意見があれば。では、そういう、「ふくい」を最後に持ってくるということで一つ。

あとよく出ているフレーズ、ちょっとコメントについてはいろいろ、それぞれ思いがあって多少の差はあるかと思えますけども、どうでしょうか。かぶってる言葉ってないですか。何があります。

事務局（吉村室長）

「やさしい」と「快適」が。

内田部会長

「やさしい」と「快適」がありますね。「快適都市」。取りあえずかぶっている分残しておいて、使うかどうかは別としまして、「やさしい」と「快適」。意外とないもんですね。

上野委員

「豊かな」というのは2番のサブと田村さん。

内田部会長

田村さんの「豊かな」ですね。「やさしい」「快適」「豊かな」。これらをつなぎ合わせればいいという問題でもないわけです。取りあえず出しましたけども、取っ掛かりとして出ただけです。この第2部会としてどういうポリシーで臨むかということ議論しなきゃいけないんですけども、ご意見ありましたら。

二林委員

「都市」という言葉は何かありふれた言葉で、こんなの使わなくても、何か変わったのがいいんじゃないですか。

内田部会長

何をですか。

二林委員

こういうような解釈としたら。

内田部会長

「都市」というのはね。

二林委員

「都市」というのは、何か。

内田部会長

じゃあ、意見として「都市」は使わないということで、意見として。

二林委員

もう少し、普通もう、大抵こういう言葉で使っているけども。

内田部会長

名詞としての「都市」は使わないで、逆に消去法というんですか、「都市」という言葉は使わないという意見が出ました。

上野委員

中でいっぱい出てきますからね。

二林委員

あっちこっちみな「都市」ばかりですから、何か変わった、どこの、よその県を見てもだいたい「都市、都市」って出しています。何か福井には「都市」を使わず、福井でさえおればいいですから、私も「都市」を付けていますけども、考えてみると、みんなこれになると。

内田部会長

そうすると1番、2番は、国際化というか、グローバル化というところをよりどころとしてるところがありますね。国際化、グローバル化、そういうちっちゃいことじゃなくて、もうちょっと広い見地でということだと思えます。国際化、グローバル化というのは。あとは、3番は高齢化というか、社会全体が高齢化しているので人にやさしいという、バリアフリーとか、そういった、やさしいという言葉も出てます、そういうやさしさの中身はそういうことで、バリアフリーとか、人を中心のという意味合いのやさしさをいってるんですね。5番も同じ見地です。ポイントとしては、バリアフリーとか、高齢化社会に対応するというか、対応できているまちというところですね。4番は難しいですね。「夢や希望」という4番のところは、田村さんのそのへんのところに通じるところがありますね。

二林委員

これは何か目玉のあれでパーッと挙げて、その一つに絞るような方法はできないかね。たくさん上げたほうがよいのでは、何か目玉がパーンと付けば、これが目玉だというのを一つこしらえて、あとはちょっとした、その方がかえっていいんじゃないかと私も思います。

内田部会長

取りあえずフレーズ、共通項を一回探っていって、そこから一つに絞り込まなきゃいけないと思いますので、私はパブコメの「No.1」、「都市」を入れるかどうかは別に、「No.1」というのは好きなんです。何が「No.1」か難しい問題ありますけど、「No.1」と宣言するというのは、何か勢いを感じます。私は「日本一」なんですけれども、全体の会議の中で「日本一」というものを持つべきだという意見は言ったんですけども、2～3日前の新聞、きのうですか、例の魅力的なまちのランキングが出て、あとはお金出さないと買えないんで買ってないんですけども、福井県は44位でした、前回は35位でしたので残念ながら順位を落としています。あと47都府県でもかなり乖離したんですけど、なかなか。

二林委員

日本一安全都市と旗立てて、何でも日本一、日本一という言葉を使うのかな。

内田部会長

そうですね。僕は好きなんですけど。

二林委員

悪くはないですけど、何かね。「No.1」にしてもいいけどね。ここで問題点を指摘して、それをつなぎ合わせるんですか。

内田部会長

そうですね、つなぎ合わせるか。

二林委員

それなら、何を選ぶかというのを、この中で何を選んでおくかというのを選んでるのは、これを選ぼうとしてはあかんのでしょうか。

内田部会長

それも方法です。

二林委員

福井が目指すものはこれだということをこの中でいくつか持ちだして、最後にはこれを落とそう、これはこうするというようなことが、私はいいかなという気がしますがね。

内田部会長

時間はまだ始まったところなので、ちょっと頭の体操をしながら考えを膨らませていこうかなとは思っているんですけども、これを3つ決めればきょうは終わりでしたっけ。

事務局（村田主任）

そうです。

内田部会長

決めればいいんですね。

事務局（村田主任）

3つにこだわらなくても、多くて3つですので1つでもいいです。

内田部会長

1つは最低作るということですね。

事務局（村田主任）

4つとなるとちょっと困る。

二林委員

この文章の中から3つ選ぶんですか。これはいわゆる参考のこと。

事務局（村田主任）

そうです。だからここにこのまま出すとおっしゃってもいいですし、つなぎ合わせてもいいですし、まったく新しいのというのでもいいです。きょう昼間やった部会は、ここに出ているのをガッチャンするのと、まったく新しいやつがポンと出たやつがあります、どの部会かは申し上げんときますが。

内田部会長

できればすべての世代とかに共通する言葉にしたいなと思います。この中で、例えばよそのことで恐縮なんですけど、例えば第1部会「ともに創ろう高齢者が輝く地域とくらし」とあるんですけども、高齢者だけということはまずいかなと思うので、そういう将来像に

はしないほうが良いと思います。すべての世代というか、共通する言葉にしなきゃいけないかなと思います。それでいて市民が聞いて「ああ、なるほどな」と、スッと落ちる、「それが福井の将来像か」というのが分かる言葉にしなきゃいけないのかなと思います。

何か自分の案を推す意見があれば、それを言うてくだされば通るかも分かりませんので、今横一線なんです。

二林委員

見出し、頭を先に決めて中身をするんですか。

内田部会長

中身は。

二林委員

見出しを作った後に、このお題を付ける。

内田部会長

たぶん、中身はこじつけじゃないですけども、それは後で付けたらいいんですよ。

事務局（吉村室長）

その意図することとか、言葉でキャッチフレーズ的に出しますけれども、その目指すところの説明は別途また下に説明を入れますので、例えばああいうもので、こういったものは入れたいというようなフレーズがあれば、そういったものが下に、上に入れることも当然可能ですけども、上に入りきれないものは下の方で説明するとか、一つの言葉がいろんな意味を示す場合なんか特にそうなんですけども、そういった説明は下のほうにまた入れるということにはなっていますので。現在のその指標です。

内田部会長

その言葉はこういうものがもし出来上がるとどこに登場する。これじゃないですか。

事務局（吉村室長）

じゃなくて、都市像というのはちょっとめくっていただきますと。

内田部会長

市長あいさつがあって基本、前文があって基本理念がある。

事務局（吉村室長）

その後ろです。

内田部会長

これですね。この後ろにも載っています。

事務局（吉村室長）

ここで今考えているこれが載ってまして、その説明がズーッと。

内田部会長

説明がね。でも、市民には届いていないですね、なかなかこれは。

事務局（吉村室長）

こちらは、説明を見れば「これはなるほど」と分かるんですけども、人によってはこれだけではちょっと訳が分からないというようなご意見もここにはいただいております。こ

こ自体も分かりやすくして、ここでは補完をするという考え方もありますし、考え方としてはいろいろ。これはどちらかという「何だろうな」というので中身を見てもらうようなイメージかなと思いますけれども、アプローチとしてはいろいろあるんじゃないかなと思います。

内田部会長

一応ここも分かりやすいほうがいいですよ。どう思いますか。これを理解するためにこっちを見なきゃいけないというのは、ちょっとおかしい。

二林委員

本当はこれ見てパッと分かれば、こんなもん、説明が長いとこれは何かかと、ポッと見て「ああ、なるほどな」という福井が分かればいいんです。これも悪くはないですけど。これは第四次にこれ、第三次かな。

事務局（吉村室長）

これは第五次。

二林委員

五次のときだね。

事務局（吉村室長）

その前は何だっけ。

二林委員

児嶋学長のときだった。

内田部会長

だから人、まち、自然、文化の交わり、響きあい、楽しみ、彩るまち、福井といってるんでしょうね。

事務局（吉村室長）

これは第五次、その前のときは「やさしさと活力のまち フェニックス ふくい」という感じですよ。

内田部会長

決まってしまうと似たような感じですよ。

二林委員

市の方にお聞きしたいのはね。これも書かれたでしょう。五次でこうやったと。これをズーッと通す気持ちはないんですか。また第六次になると、また変わったものをこしらえてやるということ。

事務局（吉村室長）

最初からそういうわけではありません。考え方として、これを生かすという考え方もあると思いますけれども、今回はまったく同じというのもちょっと芸がないかなと思います。

二林委員

ほかのはほとんど変わらん。

事務局（吉村室長）

年によってはこの基本構想の部分をもっと長いスパンで考えているところもあるんですけども、一応これを作ったときに、これの目標年次として平成23年度までということをやっています。一応これは23年度までの計画ということで、今回新しいものを作ろうということですので、そういうスタンスで素案をちょっと組み立ての前提として書いているようなかたちになります。

内田部会長

この部会のこだわりでいいかなと思うので、もしこだわり、これだけは、こういうことはぜひ入れたいというのは、お強い気持ちがあればおっしゃっていただきたいと思います。そうこだわりはないですか、皆さん。

鹿間委員

考えたときに、大きく分けて福井が今ある状態から変わるべきなのか、あるいは今ある良さをもっとよくしていく方向なのか、どっちなのか。私は中心部の活性化の問題から考えると、やっぱり今のままでよくしていてもにぎわいは復活しないから、何か方向性を少し目先を変えるべきなのかなという意見なんですけども、その2つのまずわけ道があるような気がするんです。かなりの方は、やっぱり今の快適な福井をさらによくしていく、そういう道もちろんあると思います。だけど変えるという方向も少しあるのかな、どちらなのかな、そのへんの議論があるといいかなと思うんですけど。

内田部会長

そういう意見に対してどうですか、方向的には、やっぱり今のままじゃまずいでしょうね、変えていくという方向じゃないですよ。

鹿間委員

1番と2番。

上野委員

満足度は低いんですよ。

内田部会長

ただ、これの聞き方も、高齢者ほど満足度が高くなったり、あるいは住み続けたいと言ってる。それはこれだけ長く住んでたらよそも知らないですし、そうなりますよね、それはある程度意識的にはそうなると思います。だから、例えば今年というか、今回事務局から提案があった、例えば「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける生活安心都市 ふくい」、これは将来に向かっての飛躍とか、変わっていきこうという姿勢はあまり見えない。

鹿間委員

そうなんです。それは感じられない。

内田部会長

こういうフレーズでいいかどうか。

鹿間委員

今あることをずっと保っていきこうという姿勢だと思います。

内田部会長

そういうことですね。

鹿間委員

それもあるし、もっとそれを福祉的な住みやすさを凝縮していこうということもあるし、ちょっと目先を変えた方向に将来変えていこうという向学心、皆さんがどう考えるのかなというのは正直分かんないです。でも、今のままだったら中心部のにぎわいの復活なんて、きっと10年たっても変わらないんじゃないか。そんな望んでもしょうがないことを皆さんは望んでいるのか、あるいは具体的な何かやっぱり変わろうとしてるのか、そのへんはどうなのかなと、ちょっと考えるときに思いました。

内田部会長

それじゃあ、ご意見ですので、たぶん皆さん変わりたいという気持ちは持っていらっしゃるでしょうけど、この都市像の中に、フレーズの中にそういうものを入れるかどうかということになってくると思います。今例えば「笑顔が輝き続ける安心都市」とかいう言葉と、もうちょっと積極的に変えようという姿勢を示そうというのと二者択一で、では、前者の現状を認識しつつ、いいところをアピールしていこうというフレーズがいいという方は挙手を願えますか。あと、後者の積極的に変えていこうという姿勢を示す言葉がいいという方については挙手を。では、そういう方向でいずれにしても、両極端な、例えばNo.1とか、日本一というのは両極端だと思うんです。

井上委員

それともう一つは、やはり世の中が少しずつ変わっていくということも、それも福井のまちづくりの中に多少は入れていかなきゃ、変わるというのものもあるし、変えなきゃいけないと、この両方をうまくマッチすればいいフレーズができると思います。例えば具体的にいいますと、変わるというのはやはり私が知っているのは、最近外国人の方が結構増えてきましたけど、そういう人たちが、一般の市民の方はあまり感じないかもしれないんですけど、だいたいいっしょに福井の方と住んでいかないと、多文化共生とかいうんです、そういうことも変わる一つの要素になると思います。

内田部会長

意見の中にも出ていますね、そういう意味では。

二林委員

都市の活性化、都市の活性化って、何か駅前を中心にした活性化のことばかりの頭のような気がするんだよね。私は出ていく、駅前の方ばかりの活性化、福井市全体を活性化すればいい。何か駅を中心なことばかり活性化、活性化と、必ず駅を中心にしたことを考えた活性化やね。私は決して駅前が活性しなくても、福井市全体が活性すればまちはにぎわうような気がするんだけど、何か駅前の方ばかり中心に活性化、活性化って、駅中心にしたものの考え方をしてるような気がするんです。それは私も前そういう意見を書いてみたんですけども、必ずしも駅前が中心的に活性化しなくても、福井市全体が活性化、郊外の方で活性復活すれば、福井市全体を考えた場合には活性化しているわけですから。何でも福井の駅前の方が活性しないといけない。

私は、怒られますけど、これは金を突っ込んでも駅前は活性化しませんよ、そんなもの、電車が何本出ていても魅力がないです、駅へ集まるって魅力がないですよ、何か魅力があればそこへ集まります、何もなくても、お金をいくら突っ込んでも、それは駅前へ集まるような状況じゃないです。不便なし。駅前で何か買おうかっていうのもないし、やっぱり必ずしも駅を中心にしたものの考え方をしなくてもいいんじゃないかなと私は思ってるんです。駅前、いくら金突っ込んだって、そんなもの駄目なような気がしている。怒られ

ますけどね、そんなこと言うと。もう本当に必ずしも駅を中心にしなくても、よそから来たら福井のまちは30年前と何も変わらんという言う方がおりますもんね。最近ちょっと駅中は変わりましたが、よそから来て福井へ下りても、30年前も今もあまり変わらんという方が多いですもんね。そうすると金沢や富山やら行きますと全然違いますよ、一年一年変わってます。何で福井はこれだけ、10年も20年前もあんまり変わらん状況かなと思いますけどね、疑問はありますけどね。

一番自慢できるのは、福井は食べ物がいいということだけ自慢できます。よその県行っても、ちゃんとももの食えるのありません。その点福井のものは、福井、京都もいいものね、それから見ると福井はまだいいかな、その点につきましては福井の方が非常にいいかなと思いますけどね。

内田部会長

だからその良さを伸ばそうというのを一つですね、福井の良さって何だろうかってよく議論されていますけども。

二林委員

そうすると食べ物でもいいですよ。福井の商店や飲食店屋の、あれなんかもたくさんあって、福井は非常に便利がいいというのは、それは打ち出してもいいんじゃないかと思うんです。これは自慢できると思います。これだけコンビニあるところもないし、もう100メートルおきにあります。これだけある県、市はないですよ。食べ物屋さんにしても不自由しません。私は車の運転好きでズーッと飛んで歩きますけど、岐阜あたり歩いても「さあ、飯食おうか」っていうと、「さあ、どこにあるかな」って探すような状況で、看板なんかない。その点福井はありがたいですよ。そのへんも福井の自慢の一つかなと私は思うんですけどね。

内田部会長

それが自慢すべきところかどうかという問題はある。

二林委員

自慢することじゃないですけど、便利さからいきますと福井は非常にいいということ。何か私ね、福井のパッとこれというのがあるような気がするんです。何か掘り出すような物がね。何かここらで一つ変わったやつがないかな、さすがというのが。

内田部会長

これはみんなでやると非常に難しいんです。例えばコピーライターが1人で考えて出せば、皆さんの意見が集約してできると思うんですけども、やっぱり好きな言葉が、もし自分にとって響きのいい言葉なんかがありますから、非常に難しいかなと思うんです。

もう一つの方法として、今市から出ている「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける生活安心都市 ふくい」、これを修正するという手もあるんですけどね、案としてはね。これに我々が望む言葉を置き換えて作っていくという手もあるかなと思います、方法として。誰かのを土台にすると、何でこれになるんだというのがありますから、そういう意味で、そういう方がいいかなと思いますけども。

井上委員

フレーズですけども、例えば内田さんの「ほっとできる」と、こういうようなフレーズで始まる。こういう目をパッと引くようなやつがいいのか、それとも無難にいくんか、そのへんもあると思います。先ほど市の方と、これははっきり言って無難です。もうちょっと

と今回は市民というか、一般の人がすぐ理解できるようなやさしい言葉で持っていくのか。ただ、そのへんは読むというか、見た人が、読んだ人がどう感じるかですよね。それも考えながらということだと、かなり選択は難しくなると思います。私は個人的に「ほっとできる」とか、こういうのは意外と都会的でフレーズとしては面白いと思うんだけど、例えばそれなら福井市民にとってそれがどうなるかということを考えていかないかね。

内田部会長

ありがとうございます。

二林委員

私もこれ好きだと思ったな。

井上委員

これはいわゆる、特に女の人は目を、注目するんじゃないかなという気がします。

二林委員

気が付きました、いい言葉。

井上委員

いい言葉、言葉づきで、スッと入ってくる言葉だと私は思ったんですけど、あといくつもあります。ただ、はっきり言うと手あかの付いた言葉が多いので、どうかなというのはいくつかありますけどね。

内田部会長

市民が見て、さっきちょっと私見たのは、やっぱり分かりやすい言葉と感じる言葉、これはたぶん今までが、今おっしゃった手あかの付いたという言葉借りますと、あまりにも手あかが付いたので、手あかをスカッと抜いちゃったんだと思うんです、ここはね。抜きすぎたかなという感じもするんで、そのへん微妙なところですね。

井上委員

だけど漢字で並べて見た目というか、色彩感覚と漢字の印象だけで受けるとある意味いいですよ。だけどそれで終わっちゃうんです。いわゆる絵になっちゃっているんです。文字が絵になっている。だからやっぱり今度は、文字が本当に文字として働くようなフレーズの方が私はいいいと思います。

内田部会長

僕もそれは。ちゃんと表現できる文でしょう、文字で。

井上委員

だからそれは悪くはないんだけど、まさに絵なんです。漢字と色で受ける印象はすごくあると思うんですけど、それならそれがどういう意味か、どういう言葉なのかというのは、後で説明もらわんと訳が分かんず。

内田部会長

取りあえず一つ市の方の修正版をちょっと作っておきたいなという気はするんですけど、市の案の。今までの意見からいうと、都市というのを省くと思います。「ともに手をたずさえ」というのは、協働とか、助け合いとか、向こう三軒両隣の災害があったときのうんぬんとか、その辺をいつているのかなと思います。あとは「笑顔」というか、そうあるべきだということで。このへんをちょっと修正して一つ作りませんか。例えば生活安心

のところをグローバルみたいな言葉を入れるとかね。バリアフリーというの、それぞれ世代ごとに垣根を外したり、生活環境をよくするという意味もありますので、バリアフリーというような言葉を使うとか、という言葉で置き換えてするとか。上野さん、何かちょっといいフレーズ出してください。上野さん一番若いんですから。若さはあまり関係ないか。

井上委員

年で、若い方の感性で。

内田部会長

あれを一回一つちょっと作っちゃって、あとはわれわれ会議独自の分をもう一つ作ってという感じにしましょうか。

上野委員

どれでもいい感じがする。どれでも同じ。

内田部会長

上野さんだったら。

上野委員

どうなのでしょうね。これ取りあえず修正するんですね。

内田部会長

それをちょっと修正して、取りあえずちょっとそれ。

上野委員

それを素案とするということを今やるんですね。

内田部会長

手取り早いですから、一つ作ってしまえば安心ですから。

上野委員

都市は削除しました。やっぱりこの意識調査を見せてもらおうと、一番力を入れてほしいのはにぎわいのある中心市街地づくり、活性化してほしいという意見が多いという調査結果が出ているので、やはり活性というか、活力、にぎわい、そういったことも必要なのかな。笑顔とかでいいですか。

内田部会長

笑顔じゃなくてにぎわいとか。

上野委員

漠然とした言葉だと、いろんな世代、いろんな環境で受け取っていただけるので、いいニュアンスの言葉でしたら、かなり幅の広いものを使ったほうが、受け手がいろいろ膨らませてくれる部分があるので、限ってしまわずに漠然とした言葉でいいんじゃないかと思うんですけどね。受け手によっていろいろ考え方が違う。豊かなとかってそうですよね。何がどう豊かなのかというのは、人それぞれ違ってくると思います。やさしいとか。

内田部会長

難しいね、考えてみると。よその案に、一番最後のページにほとんど一緒に、「健やかに暮らせる」と直したやつがあるんです。

二林委員

今キャッチフレーズを決めて、あとそれをいくつか作るんでしょうか。

内田部会長

市が提案しているこの分を修正するというので一つ作りましょうかということです。それで何か基礎がほしいなと思ったので。上野さんの意見は、にぎわいとか、活性化というのを入れたらどうかということですね。

上野委員

それはまた別案でも構わないですけど、一応調査結果から見ると、ということです。

内田部会長

下の説明にはいいと思うけど、上にはちょっと難しいか分からんね、活性化とかいうのはね。

上野委員

それも入っているような言葉が入ればいいんじゃないかな。「いきいき」と「快適」。「ともに手をたずさえ」ってどうなんでしょう、一番最初のこれは。これは残しますか。

内田部会長

残したくないですね。

井上委員

これは、たずさえはいらなような、始めのところね、何か違うフレーズがあったらいいなと思う。

内田部会長

「ともに」は、みんながという感じしませんか、みんなが手をつなぎとか、そんな意味合いで。みんないきいき。例えばそういうのでくるほうが、「みんないきいき」「みんな笑顔」と、「みんな何とかふくい」とか。

井上委員

逆に言うと、生活安心というと、ただ生活安心だけをアピールしてるような感じがして、だから今言ったように、「生活安心都市」を取っちゃって、「ふくい」をそのまま持ってきたほうがいいような気がするね。

上野委員

「笑顔が輝く」って別に悪くないですね。「笑顔が輝くふくい」って一番短くして、それに肉付けをしていく。

内田部会長

なるほど。じゃあ、最後は「笑顔が輝くふくい」で。

上野委員

最後にしなくてもいいですよ、途中に入れてもいいです。

井上委員

「笑顔が輝くふくい」で、下にというか、その後何か短いコメント入れてもいい。

上野委員

じゃあ、「が」はいらないですね。それでまとめてしまうなら「笑顔輝くふくい」、一番短くて。

内田部会長

「笑顔輝くふくい」にしたらね、いいじゃないですか。

上野委員

膨らませるなら中身もうちょっと入れるとか。

内田部会長

じゃあ、その前段に形容詞的なものを2つ、3つ持ってきたらいいんじゃない。われわれの今までの話からいけば、みんな、笑顔輝くというのは、笑顔が輝いている人たちは、福井の地の人もそうだし、よそ者もそうだし、外国人もそうだし、高齢者も子どももみんな笑顔が輝いてるという姿が出ればいいんですね、この言葉に、そうすれば今の高齢化バリアフリー、人中心ということに入ってきますね、何かそんな。

井上委員

短くて効果的ではあるんですね。

内田部会長

このことを入れるっていうのも難しいね、でも。「みんないきいき、あなたが主役、笑顔輝くふくい」な感じ、いきなり言葉作っちゃったけど。

田村副部会長

すいません。基本目標が「みんなで、みんなが」という、最初今みたいな「みんなが」という。

内田部会長

だから悪くはないと。

田村副部会長

いいんじゃない。

内田部会長

みんなと、言葉は後のフレーズで、みんなっていうのは何だっていったら高齢化、子どもも老若男女、それから地の人もよそから来た人も外国人もという意味のみんなと。

田村副部会長

それに先ほど言われた多文化共生にみんなに入っている。

内田部会長

だからこのフレーズで高齢者とか、人中心とか、バリアフリー全部入れるというのは無理だから。

田村副部会長

人間的にというか、みんながというか。

二林委員

これ、みんなというのは市民を指してるんですか、それとも外から来た人全部。市民という言葉じゃないわけだね。

内田部会長

福井に暮らしている人はみんな。だからみんなおいでと、福井においでと。

二林委員

市民という言葉じゃないないわけやね。

内田部会長

そうやね。

井上委員

福井にいる人全員ってことね。

内田部会長

こんな町だからみんなおいでよと、もっと。一緒に暮らそうっていう意味でね。

田村副部会長

人間的にいいって。

内田部会長

手をたずさえてみんなで一緒に暮らそう、楽しく暮らそうっていう感じでね。

田村副部会長

住み着いてくればまたみんなが増えると。

内田部会長

そうだね。

田村副部会長

基本目標はみんな、みんなって付いているからですよ。みんなというのを打ち立てたいのかなと。

内田部会長

みんなは意外とでも出てきてないんですよ。みんな、あることはあるんですね。みんなが何か差別なくとか、みんなが成長してく様でいいフレーズありませんかね、成長して。

上野委員

みんなの党とかぶるのが嫌だ、フレーズが。

内田部会長

みんなの党はそのうち消えますから、政党は消えていく可能性があるから。

上野委員

たちあがれとか、そういうフレーズが。

内田部会長

みんなは、それから言えばちょっと卑怯だよ、みんなが使う言葉使えなくなっちゃう。

上野委員

そうなの、ひどいよね、あれ。

内田部会長

でも、すべてとかいうのも使いにくいし、みんなで我慢して、みんなではいきませんか。みんな何とか、みんな何とかとしたらいいかな、成長していく様子を、鹿間さん、何かいい言葉浮かびませんか。

田村副部長

作り上げていくのなら「みんなで」の方がいい。

内田部長

「みんなで」がいい。

田村副部長

そんなことはないですか。

内田部長

それも案です、「みんなで」。

田村副部長

「みんなで笑顔輝く」、「みんなが」というか。

内田部長

そこをもう繋いじゃいますか。

田村副部長

みんなで、ごまかしているみたいなみんなね。

内田部長

3つ並べたら、僕のイメージは「で」を入れるとしたら「みんなで何とか、みんなで何とか、何々、笑顔輝くふくい」というような。

上野委員

そうするならば、この基本目標の快適で住みよい、学び成長、いきいきと働く、これを全部含まれているような言葉がいいと思われるんですが。

内田部長

すると、言葉としては学びがあって成長があるの。

田村副部長

この基本目標を全部ひっくるめたような「みんなで、みんなが」が。

上野委員

「みんなで」とか、「みんなが」ならば、一つに特化してしまうのではなくて。

田村副部長

それから考えながらともに手をたずさえる。行政、市民と協働で。

内田部長

「みんなで」っていうのは、「ともにたずさえ」という一つの表現ですよ。

上野委員

だいたい住みよいとか、快適は、「笑顔輝く」の方に含まれていると考えてもいいかなと思うんですけど。豊かな、学んで成長するとか、商業の活性化の部分がちょっと。

田村副部長

舌っ足らずやね。

内田部長

「みんなで学んで成長」。

上野委員

堅くなりますよね。

内田部長

「笑顔輝くふくい」。

上野委員

堅くなりすぎ、堅くなっちゃう。

内田部長

いやいや、それも、取りあえず堅いの一つ、これでいけばちょっと堅くなっちゃうんです、私が提案したこれを少し直して修正していきましょうという堅くなるんです、どうしても。

田村副部長

でも先ほど、方向性を変えて頑張っていくましようというか、それに向かった何か。

内田部長

にはなっていますね。向かってはいますね。

上野委員

何がいいんだろうね。

内田部長

チャレンジとかいうのは駄目なの、みんなで。

上野委員

失敗しそうな感じ。

内田部長

失敗を恐れちゃ駄目です。福井の人はチャレンジしない、しているかな、しないっていったら、断定しちゃいけない。チャレンジって言葉はなかなか使わないでしょう。挑む、挑戦とか、前向き。最後に「チャレンジふくい」というのはあかんか。

井上委員

何か前あったじゃないですか。

内田部長

あったね、チャレンジやめようか、チャレンジはあかんか。挑戦。

上野委員

トライ。

井上委員

トライはあったな。

内田部会長

トライは何か、学習塾か何か。

井上委員

どこか違う県か何かであった。

上野委員

学習塾の。

田村副部会長

「笑顔輝く」じゃなくて「笑顔輝け」とか、そういうのは駄目ですか。

上野委員

応援団みたい。

井上委員

何か関西の人、「笑顔輝け元気にいこうや」とか、そういうのが多いでしょう。

内田部会長

国際化何かないですか。

上野委員

「あなたも私も笑顔輝くふくい」。

内田部会長

3つぐらいに分けてもらえません。最後は、じゃあ、「笑顔輝くふくい」なんで。

井上委員

「笑顔輝けふくい」は決まっているので、その前やね。

内田部会長

前だね。「輝く」か「輝け」かは、今ちょっと非常に微妙なんですけども。

井上委員

デジカメ持ってる。

内田部会長

今一番最後が決まって、真ん中が案で、最初がいろいろ出てきちゃってるんで、最初。

井上委員

最初は「みんなで」です。

上野委員

「みんな」を入れる。

井上委員

「みんなで」って入れたから、真ん中は「学び成長」を入れるか、「チャレンジ」入れるかってところが鍵です。

内田部会長

そうですね。じゃあ、「みんなで」と「みんな」で切ったやつで、2つ左側に書いて、

その下に「みんな」と「みんなで」と書いていただけますか。それで縦に線引いていただいて、いいですけども、一番右端の方に「笑顔輝くふくい」と「笑顔輝けふくい」と書いていただけますか。

田村副部長

中に入ることで変わる。

内田部長

そうですね。線をつないで最初決めていきましょう。真ん中が今その大きい四角をもう一つに切ってもらえますか。

事務局（村田主任）

真ん中のですか。もう半分。

内田部長

それで私、「いきいき」を上にしてください。それから「学び成長」。「挑戦」はいいと思って、「チャレンジ」を左か右かどっちか、ここに「チャレンジ」も入れていただけますか、一応出た。それで「あなたが主役」というのをもう右の箱に。その下に「あなたも私も」。非常にやさしい言葉になってきましたね。

上野委員

「みんな」の後に入れるんだったら、「つくる」とか、「つくろう」とか、あと「みんなが誇る」とか。

内田部長

「つくろう」と「誇れる」にしようか、「誇る」「誇れる」。

田村副部長

何だろう、「誇れる」。

上野委員

みんなが「誇れる」かな。

田村副部長

「誇れる」。

内田部長

「誇れる」。

井上委員

「つくろう」は創造の「創」。

内田部長

そんな感じだね、今見ていたら。後でちょっと少し助詞とか、そのへんを少し修正しましょうか、大枠だけ決めて。

井上委員

ここからどれを選ぶか。

上野委員

ほかに何か動詞ありましたっけ。

内田部会長

あとは足りないのとしては、「いきいき」、「にぎわい」と「活力」関係が入ってないというのは、今出てきたところは。

井上委員

3つ目に入れるってこと。

上野委員

難しいね。

内田部会長

つないだって感じだね。一番上取って「みんないきいき、あなたが主役、笑顔輝くふくい」と、意味は分かります。例えばですよ。

田村副部会長

みんなつながってないです。

内田部会長

「あなたが主役」っていうと、何か振っちゃう、投げちゃいますね。何か武田鉄矢の「あんたが大将」みたいな感じ。

上野委員

お任せする感じが出てくるかな。

内田部会長

ちょっと投げちゃうような感じがするんで、「あなたも私も」の方がいいかな。「あなたも私も」だったら「輝け」っていうと、それも「何もしてくれないのに輝けるかよ」になるね。「輝くふくい」かな。「誇れる」としたら、名詞が何かほしいですね、例えば「みんなが誇れるまち、あなたも私も笑顔輝くふくい」。

上野委員

2個目なくても「みんなが誇れる、笑顔輝くふくい」。

内田部会長

なくてもか。

上野委員

みんなの中を誰だっていったら「あなたも私も」なので、重複していますよね、どちらかでいい。

井上委員

だからやっぱり「みんな」と(2)と1つ、2つ目で3つ目いらぬような気がする。

内田部会長

3つ目いらぬ。

上野委員

「みんな」の代わりにくればいい。

内田部会長

かぶっちゃうよね、入れるとしたらちょっと違う言葉、例えば名詞っぽいやつだね。

井上委員

「誇れる里山」とか、そういうの、自然環境とか、それならまだ分かるけど、ちょっと「あなた」と「みんな」とで重なっている。

内田部会長

では、そこ消しましょうか。「あなたが主役」と「あなたも私も」を消して、違う言葉を考えてみましょう。「みんなが誇れる」、何か言葉、「笑顔輝くふくい」、いいかな、ありきたりですかね。「みんなが輝く」、「みんなが誇れる」。

上野委員

インパクトがなさすぎ？

内田部会長

いや、名詞でちょっと変わったのを一種入れる。

井上委員

入れるとなると難しいね。

内田部会長

「おらがまち」とか、何かね、「みんなが誇れるおらがまち 笑顔輝くふくい」。どこかの村の標語みたいになる。

上野委員

おらがまち政策ってあったよね。

内田部会長

まちでいっても、村感覚でいいんですよね、福井、村っていうのもあれなんですけども、大都市でも何でもないので。

上野委員

都市って感じじゃないもんね。

内田部会長

村感覚の感性でいいのか、そんな大上段にいい格好する必要はないかなとは思いますがね。うららまちづくり。

井上委員

わたしは2番目だと、2番目の書くなら「学び成長」と、これがいいような気がするな。「みんなで学び成長、笑顔輝く」、こうすれば。

田村副部会長

みんなでするとね。学んでいって。

内田部会長

じゃあ、その下にちょっと書いておいてください。「みんなで」「みんなが」どっち。

井上委員

「みんなで」がいい。

内田部会長

「みんなで学び成長」のほうを作っちゃいましょう。「みんなで学び成長、笑顔輝くふくい」、「輝く」でいいですか。

井上委員

「輝く」のほうがいい、「輝け」はちょっと。

田村副部会長

きついね。

井上委員

言葉が。

内田部会長

もう全部つなげていいですよ、一つの言葉にしちゃって。

田村副部会長

みんなでやっていきましょうと、学ばないと駄目だよと、でも成長しないと駄目だよとね。

内田部会長

これで、代案何かありますか。

井上委員

まあ、やっぱり一般的で広く。

田村副部会長

分かりやすい。

内田部会長

じゃあ、ちょっと私のあれで「みんなが誇れるおらがまち」。

井上委員

「みんなが誇れるおらがまち」でいくの。

内田部会長

いや、いくっていうか、消去したらいいんです。ちょっといろいろつないでみて、もし「誇れる」を入れるとしたら、「いきいき」を入れるとしたらどういう言葉が。

上野委員

カタカナ。

井上委員

でもいいけど。「おらがまち」っていうのは福井県でもないし、変だな。

上野委員

「うらがまち」っていうのは。

内田部会長

うらのまち。

田村副部長

「うらが」や。

上野委員

「うらが」がじゃなくて。

井上委員

いや、「おらがまち」のほうが。

内田部長

おら。

井上委員

「おら」って書いているでしょう、「おらがまち」のほうが面白い。面白いっていうか、みんな「何でこんなこと書いている」と見るから、キャッチとしては面白い。

内田部長

使っているのかな、まあ、一応。

井上委員

「私のまち」とか、そういうふうに入れると逆に普通だなと思っちゃう。下のほうがインパクトあるね、「おら」で。

田村副部長

カタカナで書いたところがいいね。

内田部長

あと、この言葉使って、ちょっと好きなフレーズ作ってください。ちょっと作ってそこからやるね。

二林委員

「うらのまち」か、「おらのまち」か。

内田部長

微調整はちょっと置いておいて、ここに入っている言葉使って。

井上委員

「みんな」と「いきいき」とか、そこ全部。

内田部長

使ってもう一つぐらい、もう1つ、2つ作って、そこから選びましょう。それ場合によって残してもいいですし。

井上委員

そうすると「いきいき」と残ったのは「チャレンジ」「つくろう」か。

内田部長

じゃ、「誇れる」と「学び成長」ちょっと消してもらえますか、上とかぶるから。

井上委員

そうやね、下が分かりやすいね。こうなると、もう一つ作るというんなら、やっぱり「つ

くろう」なるな。だが、「つくろう」の前は何かもうちょっと入れないかんわね、名詞をその次に。「みんなでつくろう」。

内田部会長

このぐらいにしときましようか、時間かかっちゃうんで。取りあえず、これちょっと2つ残して、さっきちょっと新しくつくろうといったやつ、私の「ほっと」が意見出たんで、もしよろしければ、そのままじゃなくていいんですけども、当然ながら、「ほっとできる都市」が入っているんですけど、「まち」がいいか、あれですけども、「ほっとできる」というフレーズをもし使うとしたら、どんな言葉を集めてきたらいいかということを考えてもらえますか、あと30分ぐらい。

上野委員

「まち」にしてしまうと、「町のホットステーション」とかぶるので、「まち」は嫌だ。

内田部会長

これは「都市」がいいと。この前に何かもうちょっと長いほうがいいですね。

上野委員

長くする必要はないんじゃないか。

井上委員

これでいいんじゃない。短くて的確に話しているけど、「ほっとできる都市」というのは、ちょっと、私は「まち」で、にんべんの「街」を使ったらどうですか、漢字でね。

内田部会長

そうすると「都市」よりいいですね、よりいいですね。よりいいんですけど、周辺の農山村にいる人は、「まち」あれは気にしなくても、それでも「まち」といえば「まち」ですから。

井上委員

田んぼの町はどうも。

内田部会長

ひらがなを使う手がある、それがある。

井上委員

それか、平仮名か。平仮名がありやな。

内田部会長

でも、それすると本当に町村なっちゃう。

上野委員

市ではなくなっちゃう。

内田部会長

町村になっちゃう。

上野委員

これでロゴを作るのは難しいですよ、全部平仮名で。

井上委員

ロゴっていうのは何か。みんな平仮名にするってことか。

上野委員

うん、「まち」ならね。

田村副部長

平仮名の「まち」。

井上委員

「まち」でしょう、にんべんの「街」しか、このにんべんの「街」は何かモダンな感じがするんだけど。

田村副部長

にぎわいのあるね、「街」。

内田部長

一番下の「町」はもうあかんね。

井上委員

一番下の字書くのは、ちょっと。

内田部長

じゃあ、それにしましょう。

井上委員

ちょっとそれはやめたほうがいい。

内田部長

やめたほうがいい。

井上委員

やっぱり「都市」はちょっと使い古しているで、平仮名の「まち」か、にんべんの「街」かになるんだろうな。あんまり平仮名ばかりは、ちょっとおかしいわね。

上野委員

だからにんべんの「街」。

井上委員

全体的なデザイン的にいうとおかしい気がするんですよ。

内田部長

なら、ぎょうにんべんの「街」で押えておきましょうか。どうしてもその「ポチ」がほしいんですよね、私は、短いだけに、いいです。

井上委員

どこへ入れるの。

内田部長

「街」と「ふ」の間に。

井上委員

ああ、そうか、「ふくい」と「街」の間に入れるってことだな。

内田部会長

真ん中「ポチ」を。

井上委員

にんべんの「街」ね、これなかなかこの「街」が効いてきた。

田中副部会長

「ほっとする」じゃなくて、「ほっとできる」ね。

内田部会長

「ほっとする」「ほっとできる」じゃね、何か。ほっとできるんですよ、ほっとできるまちだからみんなおいで、ほっとできるからみんな長く住みたくなるし、田舎でも都会でもない何か良さがあるっていう感覚っていう意味あるんですけどね。取りあえず強引に3つ、今、後半になってできてきましたけども、4つでもよければ、また皆さんの「おれのこれを使ってほしい」というのがあれば。ちょっと短すぎるかなという感じもするんです。

二林委員

一番上が、一番良いみたいだ。「ほっとするまち」のは、何か。

井上委員

「ほっと」のほうがすごく人の目引くわね。だけどそれが、限られるとやっぱ1番かな、「ほっと」かな。

二林委員

1番、人はありふれた言葉ですね。

上野委員

インパクトありますよね、「ほっと」という。

井上委員

これいいね、ある意味すごくいいような気がしてきた。と思いますけども。

二林委員

あとの2つはどこでもある。

内田部会長

あと2つも持っていったいいでしょう。やめます。いいでしょう。せっかく作ったんですから。

井上委員

持ってって、やっぱ、いろいろ意見が。

奥島委員

格調高いのも出しかんと。

井上委員

ふざけたとか、さすがに笑われる。

内田部会長

それでいいですね、かぎ括弧は別になくてもいいんです、太い、ごっつい方は別にいい

んです、「ほっ」だけを括弧で。

田村副部長

「ほっ」だけ。

内田部長

「ほっ」だけを何か。

田村副部長

二重括弧にする。

井上委員

二重括弧みたいなのは、いるか、いないか。

内田部長

あれはいいですよ。

田村副部長

いいね。

井上委員

取っていい。

内田部長

取っていいです。

田村副部長

取る。

井上委員

取っていったらどうなるかってことだね。

内田部長

それいいですよ。

田村副部長

そのかぎ括弧。

内田部長

それ自体を二重にしたらってことですか。

井上委員

ああ、「ほっと」をね。

田村副部長

「ほっと」を何かもっと丸く感じないですか。

二林委員

カタカナでは分からないかね。

田村副部長

何か丸い感じ。

内田部会長

どうなんでしょね。

井上委員

カタカナやったら。

内田部会長

平仮名の方がほっとする雰囲気ですよ。

二林委員

そうかね。

田村副部会長

柔らかいのね。

奥島委員

やっぱりやさしさ。

内田部会長

やさしさがするね。

井上委員

平仮名だよな。

上野委員

柔らかい感じ、素晴らしい。

二林委員

やっぱりいいような気がするね。

田村副部会長

いいんじゃないですかね。

井上委員

すごく良くなった感じがする。

二林委員

よく考えると、どこでも使ってる言葉ですね。

井上委員

下はね、ただ、間違いはないけども、アピールって斬新さがないよね。

上野委員

これを集約しようと思うと、そうなるってことですよね、結局。

内田部会長

そうなっていくんですね。だからコピーライターなんかバツと出すと、何かちょっと変わったやつにどうしてもなっていますね。

上野委員

「ヤミ鍋都市」とかね。

二林委員

「街」がね、「街」ちゅう言葉もいいな。

井上委員

この「街」でしょう、これ効いてるね。

二林委員

効いていますね。

井上委員

この漢字一つが効いているね。

二林委員

「都市」という言葉よりいいね。

内田部会長

「都市」とやるよりはいいね。

二林委員

いいですわ。

内田部会長

「都市」ってちょっと大上段すぎるね、生意気だよな。

井上委員

ちょっと生意気、大都市みたいな。

内田部会長

これでもちょっと偉ぶっている感じはするけど、「街」これもちょっと。

井上委員

ただ、この「街」使うとエレガントというか。

上野委員

大正っぽい雰囲気。

内田部会長

じゃあ、あと皆さんも疲れてきて、なかなかいい案も今後あと25分、どうしても出ない可能性がありますので、この辺にして、あと先ほど司会者から、事務局から話があったとおり、我々は最後にもう一回、それまでは調整会議が2回ある。2回何か求められましたけど、調整会議。

事務局（吉村室長）

1回はこれを決める、その周りといいますか、説明とか、全体の都市像を取り囲む文章といいますか、そういったものをいろいろご意見が出た言葉などを入れながら、もう一度2回目の調整会議でまたそれを。

内田部会長

それを含めた全体を示すんでしょうか。みんなが一番最初にあったような会議がもう一回11月ぐらいという認識でいいんですか。じゃあ、そんな行程で今後進んでいくという

ことですので、私のほうの役目はこれでいいのでしょうか、あとは事務局から何か事務連絡でしょうか。

4. 事務局からの連絡事項

司 会

今、うちの室長のほうからも話出ましたが、次回は調整会議ということで、部会長さん、副部会長さんに出席をいただいて、それぞれの部会の出した意見を持ち寄りまして、そこで議論していただくということになりますので、第2部会につきましては、内田部会長さん、田村副部会長さんがアピールしていただいて、これが通るよということに頑張っていました。

内田部会長

じゃあ、10個ほどですね、たぶん10個ほど出るんですね。

司 会

そうですね、10個ぐらいは出ると思います。

5. 閉会

司 会

では、いろいろと熱い論議、お疲れさまでございました。ありがとうございました。

(以 上)